

ガーナでそろばんプロジェクト74号(2018年 5月 4日)

★★ 分け与える文化でも 私は簡単にしたくない ★★

スクールバケーション中の開室となった4月のそろばん教室は、3回のみの開室となりましたが、その中でもまたいろいろと起きたそろばん教室となりました。残念ながら足が遠のいているダバス、そして前号でお伝えしたエトナムが登室することとはなく、ギディオンとコンスタントの二人だけでしたが、この二人を通して私自身が持っている厭らしさ意地悪さが出た場面もありました。6月後半から高校受験となる中学三年生はスクールバケーションとなると補習授業や自主学習で学校に登校してきます。他の学校が果たしてどうなのかはわかりませんが、スクールバケーション中に登校して勉強する熱心さは、とっても良い取り組みだと思います。4月のある日、自主学習でクラスメイトと勉強していたコンスタントが教室で私を待っていました。私の到着と同時にそろばん教室は開室。やがてギディオンもやってきて、二人とも暗算強化練習となりました。教室に入らず、1メートルほどのブロックの壁から二人の練習を見るクラスメイト。その中には、かつてそろばん教室に通っていたけれど、来なくなった生徒もいました。2ケタ×1ケタの乗算、3ケタ×1ケタの除算を速やかに計算していくギディオンを見る目が「すごい!」と言っているのが明らかに分かります。私はギディオンとコンスタントを誇らしく思い、またブロック越しに見ていた生徒一人を 教室に通い努力するということはこういうことなのよ」という思いで目を合わさないようにして思っていました。練習終了後、一斤のパンを分けて配るのもギディオンとコンスタントだけで、壁向うで見ている生徒に配ることはしませんでした。おそらく私が教室を去った後は、分け与える文化の中で生活している二人なのでクラスメイトに分けることを知っていたのです。ところが、これほどまでに、そろばん教室に来ている生徒とそうでない生徒をきつぱり線引きしている私が、自主学習に来ていた生徒に練習後のパン

を分け与えた日がありました。その日は、待てども子どもは現れず、あきらめて身支度をして帰ろうとした時に、自主学習で来ていた女子生徒に「トシコ、彼らは来るから帰らないで。」と呼び止められ携帯でコンスタントに連絡を取ってくれたのです。もう既に学校の門まで来ていたコンスタントは直ぐに姿を現しましたが女子生徒の行動がとても嬉しかったのです。お礼の気持ちを言葉だけでなくパンを分け与えるということでも表したかったです。ギディオンとコンスタントにパンを分け与えた後「これは彼女たちあげるの」と残りのパンを手にした私を嬉しそうに見ました。分け与える文化、とても素晴らしい文化だと思うものも当然となつていくように思えてしまふのです。分け与える文化だから貰えるのも何ら関係ない者には分け与えまいと厭らしく意地悪な行動を取ってしまうのです。ガーナに住んで8年目、そろばん教室を始めて7年目に突入しても郷に入れば郷に従えが出来ずにいます。

報告 TOSHINO



協賛

トモエそろばん様